

科目名	宗教学の人間学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択必修	
担当教員	福島 寛太郎			
開講期	後期			
授業概要	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。☒ 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準：HL2101			
達成目標	「到達目標」☒ ・宗教学的”ものの見方”を理解する。☒ ・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。☒ ・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解すること。☒ 単位認定の最低基準は:「内容の7割以上を理解していること」☒ DPとの関係: 問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	家政学部生活科学科 1 年	成績評価 方法	試験成績（60点）出席状況（60％以上）・授業への理解度8割、合 とする。	
教科書	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。			
参考書	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。			
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。☒ ・ノートをこまめにとること。			
オフィスタイム	火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのものがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。☒	初回に当たり、とくになし	1.5
2	神中心の宗教	神に視点をおいてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神の宗教と無神の宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
3	人間主義的宗教	人間に視点をおいてみると、宗教の中には、人間中心のものがあ、いわゆる権威主義的宗教と人間☒主義的宗教がそれである。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
4	神秘主義的宗教と預言者的宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
5	汎神の宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。☒ ☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
11	救済の原理と価値観の転倒	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	宗教的人間（１）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
14	宗教的人間（２）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。☒ ☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
16	期末試験	期末試験を行う		0

科目名	哲学的人間学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択必修	
担当教員	関川 悦雄			
開講期	後期			
授業概要	本授業のねらいは、前期で哲学的人間論を講義したので それを基礎にしてにさらに思想的思索をを深めて行くことにあります。前期では、歴史上の哲学者が人間をどうとらえたか、たとえば「人間は考える葦」（パスカル）とか、人間は知性的に行動するとか、人間は自由意志をもつ等などを取り上げました。本講義は、前期における「人間の理解」を基礎にして、さらに人間の尊厳と倫理的課題を追究し、そしてボルノーの著書を基にして、哲学的人間学の学的内容を解明することを中心に進めて行きます。なお、この講義専用のノートを用意して、それに講義内容を予習・復習の形で記述して貰いますが、それに対するフィードバック（評価）は行います。位置づけ・水準はHL2102です。			
達成目標	1 受講者は人間の尊厳と倫理的課題の8割を理解し、まとめることができること。☑ 2 受講者はボルノーの考え・思想の下にあって「人間をどうとらえたか」という人間像を把握できること。☑ 3 受講者はボルノー思想に関する講義を聴いて自身の「人間としての生き方やあり方」を述べる可以做到こと。これら三つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げられている「知識・理解」が深められ、「倫理観・社会的責任」が培われることが期待できる。また、単位認定の最低基準は、これらの三つの項目の7割程度理解し、活用できることである。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	毎回、ワーク・シートを活用し、ゼミ形式で発表する方法の中で評価する。評価内容は、事前調べ・自作ノートの作成・発表・討議などで、20点とする。この評価を含めて、学期末でまとめ作成の80点とし、合計で100点とする。	
教科書	ボルノー著/峰島旭雄訳『実存哲学と教育学』（理想社、1966年、再版もあり）。この著書は学内の図書館にある。葛生栄二郎他共著『新・いのちの法と倫理』（改訂版、法律文化社、2017年9月を使用するが、この本は当方でコピー物で用意する。			
参考書	特になし			
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。この講義専用のノートを用意すること。			
オフィスタイム	水曜Ⅲ限（12:50～14:20）；同曜Ⅳ限（14:30～16:00）。関川研究室（図書館3階）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	授業の進め方やワークシートの活用と自作ノートの作成、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。少人数の受講者数の場合は、ゼミ形式（事前調べ・発表・質疑応答の一連の流れ）をとります。	予習・復習；自作ノートの作への整理・記述	40
2	人間の尊厳と人権尊重・福祉理念	人間としての尊厳の考え方とその習得、人権思想・福祉理念の歴史の変遷とその意義、人権尊重・権利擁護の考え方とその習得。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
3	自立の概念	人間にとっての自立の意味、人間尊重の主体的保持、介護を要する人における自己決定の考え方とその理解。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
4	ボルノーの人物とその哲学	ボルノーという人物の紹介、教育学における人間学的見方。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
5	ディルタイの生の哲学と教育学	ディルタイの生涯と思想、ディルタイの哲学・教育学と思想的位置づけ。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
6	ボルノーの実存哲学と教育学	序論―出発点としての実存哲学、二つの根本的な教育観、教育における非連続的形式の可能性。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
7	ボルノーにおける非連続的事象（1）	危機（1）―身体的・精神的発達における非連続的事象、危機の本質はなにか、病気における危機。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
8	ボルノーにおける非連続的事象（2）	危機（2）―道徳的危機、生における危機の位置、危機にたいする教育学態度。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
9	ボルノーにおける非連続的事象（3）	覚醒―教育学的概念としての覚醒、肉体的・感覚的事象、覚醒の教育学側面。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
10	ボルノーにおける非連続的事象（4）	助言―生活における助言の役割、助言と決断、教育としての助言	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
11	ボルノーにおける非連続的事象（5）	出会い（1）―出会いの概念（出会い、あたらしい出会い概念の二つの段階、二つの出会い概念の相違、出会いの実存的概念）。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
12	ボルノーにおける非連続的事象（6）	出会い（2）―出会いの実存的概念、出会い概念の拡張と精神科学的概念。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
13	ボルノーにおける非連続的事象（7）	出会い（3）―教育学上の問題としての出会い（出会いと陶冶との対立、出会いと陶冶との補助関係、教師との出会い）。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
14	ボルノーにおける非連続的事象（8）	教育における冒険と挫折―教育の本質的契機としての冒険、試行・賭け・冒険、教育への転用、挫折。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	授業のまとめ	倫理やボルノー思想の学習を通してのまとめ。自作ノートに対する評価。	予習・復習；自作ノートのチェック	40

科目名	衣生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修
担当教員	田辺 真弓		
開講期	後期		
授業概要	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、人間と被服、それを取り巻く環境との関連性を幅広く学ぶ。近年、衣生活は大きく様変わりしており、繊維産業の技術革新による高付加価値製品の開発が行われる一方、海外への工場移転、輸入繊維製品の増加とアパレル市場の価格競争の激化、衣服廃棄量の増大と地球環境への影響等が大きな問題となっている。☒ 衣生活を営む上で必要とされる衣服の的確な選択と購入、快適な着方、清潔な管理などの基本的知識を得るとともに、衣生活に関わる諸問題に対処できる能力を養い、消費者としての視点から持続可能な社会への取り組みへの理解を深める。☒ また、家庭科教育における衣生活の課題を把握し、指導者としての視点を養うとともに、衣生活分野における教科指導に役立てることができるよう、衣生活全般における基礎知識を修得する。さらに、介護を必要とする人に対しての衣生活の援助に役立つ知識を習得する。		
達成目標	①衣生活の専門知識を修得し、それらを活用できる。☒ ②現代の衣生活をめぐる諸課題を発見分析し、解決する能力を身につけている。☒ ③自己の専門知識を社会のために活かし、社会的責任を果たすことができる。☒ ④地域社会における衣生活に関する諸問題に新たな発想で取り組むことができる。☒ 単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。		
受講資格	上記対象学生及び教職履修、介護福祉士履修学生は必修	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題レポート・期末筆記試験により確認と評価を行う。☒ ①課題レポート 2回 20点☒ ②期末筆記試験 80点☒ 60点以上で合格点とする。
教科書	『消費者の視点からの衣生活概論』 菅井清美・諸岡晴美編著 株式会社井上書院 2013年 ISBN978-4-7530-2323-3 C3077		
参考書	授業で紹介する。		
学生への要望	自分および家族の衣生活実態と問題点を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。衣生活全般に関心をもつとともに、新聞雑誌等の衣生活関連記事に目を通し、自ら調べようとする姿勢を身につけること。		
オフィスタイム	教務部非常勤講師控室 月曜日（IV時限）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス☒ 日本風俗美術館見学・服飾解説	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。日本風俗美術館を見学し、展示されている風俗人形の服飾、その時代背景についての解説を聴き、日本の服飾についての関心を高めるとともに理解を深める。	日本風俗美術館見学の感想をまとめる。	60
2	衣服の始まりと変遷	着衣の始まり、着衣に対する意識の変化、流行のプロセス、流行の心理について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
3	身のまわりの衣服と衣服材料	身のまわりの繊維製品と衣服の分類、織物・編物・糸、天然繊維・化学繊維などの衣服材料について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
4	衣服の選択一色彩とファッション	衣服を構成する色彩とデザイン、ファッション商品に求められる性能について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
5	体型に合わせた衣服の購入	体型と衣服、衣服のサイズ表示、適切なサイズの選択について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
6	衣服を快適に着用するために	寒暑から身を守る着方、動きやすい衣服と衣服圧などの被服衛生について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
7	衣服の清潔な管理（1）	衣服の汚れと洗たく、衣料取り扱い絵表示などの衣服管理について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
8	衣服の清潔な管理（2）	家庭洗たくと商業洗たく、洗たく以外の手入れなどの衣服管理について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
9	環境に配慮した衣生活（1）	衣服の廃棄とリサイクルについて学び、持続可能な社会について考える。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
10	環境に配慮した衣生活（2）	洗たくに由来する環境問題、ドライクリーニング剤による環境汚染問題について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
11	進化する衣服性能と技術（1）	繊維を作る技術の進歩や加工剤の開発によって登場した高性能衣服素材について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
12	進化する衣服性能と技術（2）	高度な機能性を追求した衣服アイテムの例として、スポーツウェアの変遷からみる技術開発について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
13	乳幼児・高齢者・障がいのある人の衣服	年齢や身体機能に合わせた衣服、ユニバーサルデザイン服について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
14	省エネ・災害への対応を考えた衣服	節電対策の衣服（クールビズ・ウォームビズ）、身体防護のための衣服について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	授業のまとめと期末筆記試験	授業のまとめを行い、望ましい衣生活のあり方を考える。 期末筆記試験を実施する。	本日の講義内容についてまとめる。	60

科目名	食生活概論	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修
担当教員	鉢野 信子		
開講期	前期		
授業概要	望ましい食生活とは、食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などの複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って、「健康」かつ「安全」で「満足」できるような食生活の質の向上を構築することが重要である。本授業では「食」に関わる周辺を包括して学ぶ。 【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。 【位置づけ・水準】 DS2143		
達成目標	「食生活」の重要性を認識するとともに、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につけること、および、【履修カルテの評価項目】を達成することを目標とする。☒ ☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。☒ ②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。☒ ③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。 【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80％を理解していること。 【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】①知識・理解 ②倫理観・社会的責任		
受講資格	家政学部 生活科学科 1 年	成績評価 方法	①ノートまとめ20％☒ ②課題30％☒ ③期末試験50％
教科書	①指定の資料を各自コピーして持参する。☒ ②指示したホームページをダウンロードして、各自印刷して持参する。		
参考書	必要に応じて、授業内で案内する。		
学生への要望	1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。☒ 2. 各省庁のホームページを検索する場合があります。パソコンを持参してください。☒ 3. ノートをしっかりとって下さい。☒ 4. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。☒ 5. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。		
オフィスタイム	月曜日3時限および火曜日3時限目のNo.1食品学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の目的	「食生活概論」は、「食」に関わる周辺や、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことが目的であることを理解する。併せて、授業の導入として、食品の定義について説明し、「食品」とは何かを理解する。	復習：1回目の授業内容についてノート整理をしてください。	30
2	食品表示と法的位置づけ	食品表示は、食品の履歴書・保証書であることから、「食品表示」の情報を正確に読み取ることが安心・安全な食品を選択するために重要である。ここでは食品表示は消費者庁が一元化して掌握していることを理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：2回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題①に取り組んでください。	60
3	品質等選択に役立つ表示	JAS法に基づく食品表示は品質の表示基準であるとともに、遺伝子組み換え食品の表示、加工食品の原料原産地表示、期限表示などがあり、その表示法について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：3回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題②に取り組んでください。	60
4	安全や衛生に関する表示	食品衛生法による食品表示の法体系と表示内容、および食物アレルギーの表示制度について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：4回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題③に取り組んでください。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	健康や栄養に関する表示	特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：5回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題④に取り組んでください。	60
6	食の安全について	食の安全性の考え方について説明し、食品の安全確保には、食品の加工および保存技術の発展が重要であること、および、食の安全については客観的な判断が必要であることを理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：6回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑤に取り組んでください。	60
7	おいしさの基本理念	「食べ物のおいしさ」には、外観、香り、味、テクスチャー、音などの五感によってとらえられる生理的なおいしさがある。また、価格や商品名などの情報は、心理的においしさに影響を及ぼすことについて学習し、理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：7回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑥に取り組んでください。	60
8	食嗜好の形成	食物の認知や好き嫌いは、脳の第2次味覚野で統合されて判断される。おいしい、まずいは慣れへの依存であり、幼児期に刷り込まれた味が強固となって食嗜好が形成されることを理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：8回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑦に取り組んでください。	60
9	食生活と健康	我が国において、食生活と健康維持・管理に係る取り組みとして2013年度から開始している「第4次国民健康づくり対策：健康日本21（第2次）」について解説し、生活の質の向上と社会環境の質の向上について理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：9回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑧に取り組んでください。	60
10	日本人の食事摂取基準（2020）	日本人の食事摂取基準は、健康な個人並びに集団を対象として、国民の健康の保持・増進、生活習慣病の予防のために2020年4月より実施する「日本人の食事摂取基準（2020）」について、その概要と改正のポイントについて理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：10回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑨に取り組んでください。	60
11	食料と環境問題	「快適な環境」、「魅力ある環境」を目指すために、フード・マイレージの低減、食料自給率、地産地消、食べ残しや食品廃棄の低減への取り組み方について理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：11回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑩に取り組んでください。	60
12	照射食品の安全性とその利用	我が国では、ジャガイモの芽止めのみ、放射線照射が許可されている。放射線照射食品との関連から、放射性物質による食品への移行と健康への影響について考え方を理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：12回目の授業内容についてノート整理をしてください。	60
13	食空間の基礎	食空間は、人間・時間・空間の3要素を相互作用させて創造しなければならない。色は食空間のイメージを決定づけたり、色の持つ力を意識的に使って料理をおいしく見せたり、食卓を楽しく演出することが出来る。ここでは、色の基本、色と料理のおいしさの関係、色とテーブル・コーディネートについて、理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：13回目の授業内容についてノート整理をしてください。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	店舗、飲食店、キッチンの食空間	食空間は、食物を売るデパート・スーパーマーケット・街の洋菓子店など小売店の売場と、食物を食べる家庭の食卓や飲食店の客席などの食事空間と、調理するキッチンに区別できる。ここでは、いかに分かりやすく楽しく買物できるか、いかに満足し心地よく食事できるか、いかに効率よく環境衛生に即して調理できるかを念頭においた食空間について理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：14回目の授業内容についてノート整理をしてください。	60
15	授業の総括：確認と授業評価	本授業のまとめとして、ここでは、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、「アメニティ」と「ホスピタリティ」の精神が、「安全」かつ「健康」で「満足」できるような食生活の質の向上の構築につながることを再確認し、理解する。あわせて、本授業に対し、学生より評価を得る。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：15回目の授業内容についてノート整理をしてください。	60

科目名	住生活概論	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	前期			
授業概要	住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。位置付け・水準 HL2137			
達成目標	広い視野で物事を捉え、住生活に関わる基礎的知識を総合的に理解する。さらに社会及び家庭生活における諸問題について考察し、学んだ知識や技術を活用して問題解決を図ることができる。単位認定の最低基準は以下の①～④について7割達成していること。☒ ①わが国の住宅におけるMD及び気候風土との関連について理解する。☒ ②家族と間取りとの関連について考察する。☒ ③UD住宅の在り方について理解する。☒ ④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。☒ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力・問題解決力」「倫理観社会的責任」			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	①定期試験 7 0 %☒ ②提出図面 3 0 %	
教科書	初めて学ぶ住居学＜建築のテキスト＞編集委員会 学芸出版社			
参考書	「住宅の計画学入門」鹿島出版会☒ 「ダイニングキッチンはどうして誕生した」技報堂出版			
学生への要望	現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。			
オフィスタイム	生活科学研究室☒ 月曜日Ⅰ・Ⅱ時限（8：50～12：00）☒ 木曜Ⅰ時限（8：50～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	これからの授業内容や進め方、目的を説明する。また、私たちの住生活を取りまく問題について考える。	新聞等に目を通し、日頃から住生活における問題に目を向ける。	60
2	住生活と諸問題	多様化する住生活について理解し、様々な住生活の諸問題について考える。	住生活の諸問題を取りあげ、自分の考えをまとめておく。	60
3	住生活と住まいの変遷	日本の風土的特徴を踏まえながら、気候風土と住まいの形態及び地域性と住まいについて確認する。	日本の気候風土、地域性についてまとめる。	60
4	家族と住まいの変遷	現在の住まいの構造や形式は非常に多様であるが、住まいの変遷を辿ると各時代の家族観がその平面構成に反映されていることを確認する。	住まいの変遷と平面構成の変化を確認する。	60
5	高齢者と住環境	高齢者の身体的特徴を踏まえながら、住居内での事故を防止するための手すりや段差解消の方法について学ぶ。また、現代社会における基礎的問題として、介護保険制度について理解し、高齢者の自立促進及び介護者の負担軽減を目的とした居住環境整備について考える。	介護保険制度を踏まえながら、住居内の事故防止のための方策についてまとめる。	60
6	間取りの重要性 1	本来最も安心して過ごすべき住まいが子供の犯罪行為の場となった事例から、住まいにおける子供空間の位置付けについて考察する。	子どもの自立と子ども部屋の関係について調べる。	60
7	間取りの重要性 2	間取り（空間構成）と家族問題とを関連付けながら、心（ソフト）と住まい（ハード）との関係が皆無ではないこと、さらには両面から人間を守護しなければならないことを確認する。	家族の問題と間取りの重要性について考えをまとめる。	60
8	住宅と衛生	換気と結露（表面結露・内部結露）との関連について理解し、結露を発生させない住まい方を考える。	住まいの衛生について考え、住まい方を考察する。	60
9	住宅設計製図の基礎	模範住宅の図面から、設計に用いる開口部などの記号について説明します。次に、設計製図における線の引き方の基礎を学びます。☑	設計製図における線の引き方を練習する。	60
10	線の引き方、製図文字の練習	前授業に引き続き、線の引き方と、製図文字を練習する。次にダイヤモンドリング作成について説明する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	180
11	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、ダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、引き続きダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成した後、住宅図面トレースについて説明する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	60
13	住宅図面のトレース1	模範住宅の図面をトレースすることにより、設計図の描き方の基礎を学ぶ。本授業では、平面・配置図を完成させることを目的とする。	平面図・配置図をトレースする。	180
14	住宅図面のトレース 2	前授業に引き続き、2 階平面図、立面図を完成させる。	2階平面図と立面図のトレースを完成させる。	180
15	住宅図面のトレース 3	前授業に引き続き、トレースを完成させることにより、図面を読む基礎的知識を習得する。	製図記号等の基礎的知識を理解し、トレースを完成させる。	180

科目名	建築計画Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	後期			
授業概要	建築計画に必要な基礎的知識を養うために、住宅や各種建築物における室や相互のつながり、規模、基本的な計画の留意点を学ぶ。また、生活上のさまざまな要求を満たし、快適で便利な空間を計画するために、各種建築物の役割や建築物が造られる過程における建築計画の果たす役割や進め方について学ぶ。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。位置付け・水準 HA2201☑			
達成目標	建築物の構想や基本的な方針などを踏まえ、建築設計に活かす基礎的能力を養う。単位認定の最低基準は、下記①～④の7割達成していること。☑ 単位認定の基準は以下のとおりである。☑ ①細部計画・各部計画の要点を把握する。☑ ②独立住宅における諸室の機能的つながりと計画上の要点について理解する。☑ ③集合住宅の様々なタイプの特徴およびその長所・短所を理解する。☑ ④各種建築物の計画上の留意点を把握する。☑ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「倫理観社会的責任」「創造的思考力」			
受講資格	生活科学科 建築デザイン専攻	成績評価 方法	①期末試験50%☑ ②確認テスト30%☑ ③レポート提出20%	
教科書	『やさしい建築計画』深水浩著,学芸出版社			
参考書	『設計に活かす建築計画』内藤和彦他著, 学芸出版社☑ 『第3版コンパクト建築設計資料集成』日本建築学会編, 丸善株式会社			
学生への要望	建築物に興味関心を持ち、実際に足を運んで観察するよう心掛けること。			
オフィスタイム	家政学館4階 生活科学研究室☑ 月Ⅰ・Ⅱ時限（8：30～12：00）☑ 水Ⅰ時限（8：30～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、住宅の分類	これからの授業のすすめ方について説明する。☑ 住宅の分類及びそれぞれの長所短所について説明し、住宅の建築設計における位置づけ（重要さ）について、家族問題や社会問題、歴史的背景と関連させて講義する。	住宅の分類と長所短所について整理し、歴史的背景や諸問題について考察する。	60
2	住宅のゾーニングについて	住宅におけるゾーニング及び動線の意味とテクニック、事例を説明する。また、収納の面積や最小限住宅の事例を話し、空間利用の魅力や手法について講義する。	住宅におけるゾーニングおよび動線計画について事例をもとに考察する。	60
3	住宅における各室の設計ポイント	寝室や老人室、居間、台所等の各室における基礎的面積、家具配置、出入りの注意点について説明する。	住宅設計の留意点について理解する。	60
4	住宅の事例研究 1	住宅展示場を見学し、各諸室のつながりや構造、材料、収納、インテリア等について近年の動向を把握する。	住宅の各諸室のつながりについて近年の動向を調べる。	60
5	住宅の設計手法、プランニング演習	食寝分離、公私室型、ダイニングキッチン、続き間等の設計の手法、その理論を解説する。これらの知識から、小住宅のプランニングをし、エスキスのテクニックを学ぶ。	住宅の設計手法を理解する。	60
6	集合住宅の歴史、分類	わが国とヨーロッパの集合住宅を比較し、わが国の特質を明らかにする。また、近年の動向を郡山市を例として解説し、集合住宅の分類を高さ及びアクセス方法の両面から講義する。	集合住宅の分類について理解し、長所と短所を整理する。	60
7	集合住宅の住戸計画	鉄筋コンクリートや鉄骨造における経済的スパン及びスパンに住戸を収めるという考え方について説明する。さらに一住戸をプランニング演習する。	集合住宅の住戸計画について理解する。	60
8	集合住宅の事例	わが国における戦前からの集合住宅の事例、海外の事例を説明する。このことにより、多彩な計画法を学ぶ。	集合住宅の事例をもとに様々な計画法について理解を深める。	60
9	学校建築の計画	小学校の運営方式や所要諸室について、配置計画上の要点をふまえながら、近年の多様な教育プログラムに対応できる空間構成について考える。	学校建築の留意点についてまとめる。	60
10	幼稚園・保育所の計画	幼稚園・保育所における所要諸室とその機能的つながりをふまえながら、幼児や乳児の人体スケールに配慮した各部の計画について学ぶ。	所要諸室の必要性と人体スケールについて理解する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	図書館の計画	一般的な地域図書館における必要諸室とそのゾーニング及び機能的つながりについて考える。☑ また、図書館に関する基本用語を理解し、閲覧室の座席レイアウトおよび書架の配置と収納能力について学ぶ。	ゾーニングと機能的つながりについて事例をもとに考察する。	60
12	美術館の計画	一般的な美術館における、必要諸室とそのゾーニング及び機能的つながりについて考える。☑ また、美術館に関する基本用語や来館者の巡回形式、展示室の採光・照明計画について学ぶ。	美術館計画の留意点について理解し、事例をもとに考察する。	60
13	建築物の事例研究Ⅰ☑ (プレゼンテーション)	建築学生として必ず把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。	有名建築家の作品を事例として設計趣旨、時代背景等をまとめ、パワーポイントを作成する。	180
14	建築物の事例研究Ⅱ☑ (プレゼンテーション)	建築学生として必ず把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。	有名建築家の作品を事例として設計趣旨、時代背景等をまとめ、パワーポイントを作成する。	180
15	建築物の事例研究Ⅲ☑ (プレゼンテーション)	建築学生として把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。	有名建築家の作品を事例として設計趣旨、時代背景等をまとめ、パワーポイントを作成する。	180

科目名	インテリアデザイン	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	後期		
授業概要	インテリアデザインに必要な専門知識及びその関連知識として「インテリアデザイン史・論」「インテリア計画・インテリアデザイン基礎」「インテリア材料・構造生産」「インテリア装備・装飾」の4領域について学ぶ。また、学んだ知識を活かしてインテリアをデザインし、CGで表現する技術と創造力を養う。課題・プレゼンテーション後、コメント等によるフィードバックを行います。位置付け・水準 HL2139		
達成目標	インテリアデザイナーの役割や求められる資質について理解し、インテリアデザインに必要な専門知識や技術、プレゼンテーション能力を養う。単位認定の最低基準は、下記①～⑤の7割達成していること。☑ ①日本及び西洋のデザイン史について理解し、主要な家具・調度品、様式の特徴を把握する。☑ ②インテリアエレメントの種類や特徴を理解する。☑ ③インテリアの材料及び構造について理解し、それらの特徴を把握する。☑ ④人体の寸法、物の大きさ等、スケール感を身に付ける。☑ ⑤インテリアの表現技法を習得する。☑ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「倫理観社会的責任」「創造的思考力」		
受講資格	生活科学科☑ 社会福祉専攻☑ 建築デザイン専攻	成績評価 方法	①提出作品30%☑ ②レポート・小テスト20%☑ ③期末試験50%
教科書	日本インテリア設計士協会テキスト☑ インテリア産業協会テキスト		
参考書	インテリア関連書籍をその都度提示する。		
学生への要望	授業目標を理解し、授業に臨むこと。		
オフィスタイム	生活科学研究室☑ 月曜日Ⅰ時限（8：50～12：00）☑ 木曜Ⅰ時限（8：50～10：20）☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	これからの授業の進め方やインテリアデザインに必要な専門知識や技術について説明する。	インテリアデザインに必要な専門知識や技術について理解する。	40
2	インテリアデザイン史Ⅰ	西洋のインテリアと家具の歴史を学ぶ。	西洋のインテリアの歴史と家具の変遷について整理して理解する。	40
3	インテリアデザイン史Ⅱ	日本の住宅とインテリア、家具の歴史を学ぶ。	日本の住宅の変遷と家具の歴史について整理して理解する。	40
4	インテリアデザイン基礎	形と空間構成・色彩・インテリアの表現技法を学ぶ。	インテリアデザインの基礎として表現技法について理解する。	40
5	インテリア計画	人間の生理や心理をふまえた視点から計画するための知識を養う。	インテリア計画の知識について理解を深める。	40
6	インテリア材料	材料の持つ特質を知り、快適で安らぎのある空間について考察する。	インテリアの材料の特質を整理する。	40
7	インテリア構造・生産	インテリアの構法、室内構造と各部の名称等について学ぶ。	インテリアの室内構造について理解を深める。	40
8	室内装備・装飾Ⅰ	カーペット・壁と天井の仕上げ・ウインドウトリートメントについて学ぶ。	室内装備・装飾について事例をもとに理解を深める。	40
9	室内装備・装飾Ⅱ	台所・洗面・浴室等の設備機器等について学ぶ。	室内の設備機器について理解する。	40
10	室内パースⅠ	インテリア関連の各資格に対応したパースの書き方を理解する。与条件を十分に理解し、課題の主旨に応じた室内パースを描く。	室内パースの書き方を理解しパースを製作する。	90
11	室内パースⅡ	前授業に引き続き、室内パースを製作する。描き方のプロセス・テクニックを十分に理解し、室内パースを制作する。	室内パースの書き方を理解しパースを製作する。	90
12	室内パースⅢ	前授業に引き続き、室内パースを製作する。描き方のプロセス・テクニックを十分理解し、室内パースを完成させる。	室内パースの書き方を理解しパースを製作する。	90
13	インテリアデザイン	室内空間をC A Dを使用して3 Dで表現する。イメージスケールをもとに、理想の空間を3 Dで表現する技術を習得する。	C A Dを使用した表現技術を習得する。	90
14	インテリアデザイン	前授業に引き続き、室内空間をC A Dを使用して3 Dで表現する。イメージスケールをもとに、理想の空間を3 Dで表現する技術を習得する。	理想の室内空間を表現する。	90
15	プレゼンテーション	製作した作品のプレゼンテーションを行う。☑ 学生間でそれぞれ評価し合い、ディスカッションを行う。	ディスカッションを通して、作品を評価する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	建築構造Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	後期			
授業概要	建築物を形作る建築工法には多くの種類があり、それぞれの特徴を持っている。本授業では、建築構造のあらましと、「木構造」の軸組や仕上げの構成について理解することを目的としている。☒ 課題は返却し、コメントになるフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 HA2211			
達成目標	【履修カルテ】☒ ①木構造の軸組が理解できているか。☒ ②木構造の内外仕上げ材の特性を理解できているか。☒ ③木構造の矩形図・各伏図の詳細について理解しているか。☒ 単位認定最低基準：「授業内容の8割を理解し、設計製図に反映できていること」☒ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」「倫理観、社会的」			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験80％、課題提出20％	
教科書	やさしい構造力学☒ 学芸出版社			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	不明な点は放置せず、直ちに質問すること。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20☒ 、 14:30～16:00☒ 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、建築構造概論	建築物はどのような部分からなりたっているか理解させ、科目の導入とする	授業内容をテキストで復習	60
2	建築構造のなりたちと歴史的発達について	社会的変化や科学技術の進歩、発展等と合わせて理解させる	授業内容をテキストで復習	60
3	建築構造の分類、建築物にはたらく力	主体構造の材料・工法・形式別分類について把握させ、外力の種類・部材に生ずる各種の力について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
4	木構造の特徴と構造形式について	木構造の一般的な特徴を把握させ、現在用いられている構造形式とその特徴について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
5	木材の性質と接合方法	継手や仕口の種類と使用箇所、接合金物の種類、接合の注意点について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
6	基礎	基礎のあらまし、地業・基礎の形式について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
7	軸組 1	軸組のあらまし、土台・柱の配置、慣用的な断面寸法等を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
8	軸組 2	胴差・桁・梁・火打梁・筋かい・耐力壁・貫・間柱の配置、慣用的な断面寸法、接合方法等を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
9	小屋組	屋根の種類と小屋組・和小屋・洋小屋について把握し、小屋伏図が作成できるよう理解させる	授業内容をテキストで復習	60
10	床組、階段、開口部	各部詳細の把握と、納まりを理解させる	授業内容をテキストで復習	60
11	外部仕上げ	屋根・軒天井・庇・樋・外壁の形式と詳細について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
12	内部仕上げ 1	内部仕上げのあらまし・床・内壁・天井について部座州の名称、働きについて理解させる	授業内容をテキストで復習	60
13	内部仕上げ 2	床の間・棚・書院・押入・縁側について各部の納まりと名称を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
14	木造枠組壁構法	枠組壁工法の特徴・構造材・主体構造の構成を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
15	総まとめ	木構造について総括する	授業内容をテキストで復習	60

科目名	色彩学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	前期		
授業概要	色彩の基礎を学びます。物理的側面と心理的、生理的側面を概観しながら、日常生活における色彩の役割について学びます。色が見えるとはどういうことか、色の役割、色の分類や名前、心理効果、配色などについて解説します。毎授業の最後に簡単な確認問題に取り組みます。また色相やトーン体系を理解するために、色材を使つての混色演習や、配色カードを用いた課題に取り組むとともに、色覚弱者についても学びます。☒ 提出作品や確認問題の答え合わせの際には解説やコメントなどによるフィードバックを行います。 DA2124		
達成目標	色彩に関する知識（検定試験3級程度）を身につけることを目標とします。☒ ・単位認定の最低基準：課題、確認問題などの提出（ルーブリック評価に基づいて判定します）☒ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：①知識・理解、②総合的な学習経験、創造的思考力		
受講資格	人間生活学科 1 年生	成績評価 方法	確認問題(60点)、演習課題(40点)で総合的に評価しますが、☒ 講義内容の7割程度の理解を期待します。
教科書	ありません。☒ 各単元ごとに資料を配布します。		
参考書	○演習課題で使用する資料☒ （資料についてのガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します）☒ ・日本色彩研究所監修 ①新基本色表シリーズ4（PCCS） ②新配色カード199a☒ ○参考書☒ ・色彩学概説（千々岩英彰著：東京大学出版）☒ ・カラーマスターベーシック（NPO法人アデック出版局／色彩士検定参考書）他		
学生への要望	・日常生活の中で色彩が果たす役割について考えてください。☒ ・演習課題で使用する筆や絵具、カッター、のりなどは各自で準備してください。☒ （画材のガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します）		
オフィスタイム	金曜日 Ⅰ・Ⅱコマ☒ 木曜日 Ⅱコマ☒ 場所：芸術館1階 No.2工芸室（研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 授業の目的や内容について説明する。☒ 2. 色を見るときはということか、色の役割などについて考える。	ガイダンスで配布された資料をもとに生活の中にある色の役割を考える。	30
2	講義：色のなりたち（1）	1. 色を感じる経路 2. 光 3. 物体の色 4. 色を見るための光源 ※確認問題 1	色が見える仕組みや光とは何かについての理解を深める。	60
3	講義：色のなりたち（2）	5. 光がつくる自然の色 6. 目の構造と視細胞 ※確認問題 2・3	目の構造について資料や確認問題を参考に理解を深める。	60
4	講義：色の分類（1）	1. 有彩色と無彩色 2. 色の三属性	色の整理分類について理解を深める。	60
5	講義：色の分類（2）	3. トーン（トーンの位置とトーン名、イメージ等） 4. 色立体 5. PCCS色彩体系（日本色研配色体系）	色の表示方法について資料を参考に理解を深める。	60
6	講義：色の表示方法（1）	1. 表示方法の分類 ① 記号による表示 2. 表色系（マンセル、PCCS、オストワルト、XYZ等） ※確認問題 4～9	色の表示方法について資料を参考に理解を深める。PCCSによる色彩体系について理解を深める。	60
7	演習 1：PCCSの色彩体系	〔演習課題〕 新配色カード199aを用いて以下の台紙に色紙を貼る作業を行う。☒ ①12色相環 ②PCCSトーン別色相環☒ ③PCCS色相・トーン一覧表	新配色カードを用いた台紙を完成させ、色の体系についての理解を深める。	120
8	講義：色の表示方法（2）	1. 表示方法の分類 ② 色名による表示 2. JIS標準色票と用途について ※確認問題 10・11	色の表示方法について資料を参考に、PCCSによる色彩体系も含めて理解を深める。JIS標準色票について理解を深める。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	講義：混色	1. 混色と等色 2. 三原色 3. 加法混色 4. 減法混色 5. 色材の混色 ※確認問題 12	混色について配布資料や確認問題を参考にして理解を深める	60
10	講義：色の知覚効果	1. 色の対比効果 2. 色の同化効果 3. 色の伝達効果 4. さまざまな色の見え方 ※確認問題 13～15	色の知覚効果について資料や確認問題をもとに理解を深める。	60
11	講義：色の心理効果 演習2：トーンとイメージの2色配色	1. 色の感情効果 2. 色のイメージと連想 3. 色の象徴性 ※確認問題 16 [演習課題] 新配色カード199aを用いて以下の台紙に色紙を貼る作業を行う。 ④色の心理効果	色の心理効果について資料や確認問題をもとに理解を深める。	60
12	講義：色彩調和 (1)	1. 配色と色彩調和 2. 色彩調和の原理 3. 色彩調和の形式 4. 配色の基本的な考え方 5. 色相を基準にした配色	色彩調和について資料を参考に振り替える。特に、色の調和とは何かについて理解を深める。	120
13	講義：色彩調和 (2)	6. トーンを基準にした配色 7. 基本的な配色技法 8. 慣習的な配色技法 9. 秩序の原理による配色の形式 10. 配色とイメージ ※確認問題 17・18	色彩調和について資料を参考に振り替える。特に、配色とは何かについて理解を深める。	60
14	演習3：配色演習	[演習課題] 新配色カード199aを用いて配色演習を行う。☒ ⑤色相を基準にした配色☒ ⑥トーンを基準にした配色☒ ⑦配色技法	⑤～⑦の配色演習に取り組むことにより、配色についての理解を深める。	60
15	講義：色のユニバーサルデザイン まとめ	1. 色弱者の見え方 2. 高齢者の見え方 3. ユニバーサルデザイン 4. 見えづらい例と改善例 【まとめ】 1. 講義のまとめ 2. 演習課題のまとめ 3. その他 色彩に関する検定試験について	色のユニバーサルデザインについて配布資料を参考にして理解を深める。 これまでの資料や演習課題を振り返り、色彩の基礎について理解を深める。	30

科目名	建築設計製図Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 4単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	後期			
授業概要	建築の設計には、たくさんの図面が必要です。本授業では図面の重要性を認識し、プランニングや模型制作を通して、建築設計における基礎的な製図の力や空間を考える能力を伸ばします。このことにより、立体感や創造力を身につけることを目的とします。☒ また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけます。☒ 課題はコメントによるフィードバックを行い、学期末に返却します。☒ 位置づけ・水準 HA2121☒ ☒			
達成目標	【履修カルテ】 ①製図用具の基本的取り扱いが習得できたか。 ②基礎的な図面表現を理解できたか。 ③住宅の基本モジュールを理解し、応用することができたか。 単位認定最低基準：「基礎的な図面と模型が作成できること、指導内容の7割を理解していること」 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力・問題解決力」			
受講資格	建築デザイン専攻 1年生	成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80%、授業への取り組み、意欲20%	
教科書	『新しい建築の製図』学芸出版社☒ その他、適宜プリントや参考図面を配布します。			
参考書	住宅雑誌等			
学生への要望	作品の提出期限を厳守してください。自宅や本学製図室で制作することを心がけてください。☒			
オフィスタイム	月曜日8：50～10：20 木曜日14:30～16:00☒ 阿部：家政学館4F 生活科学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室 高橋：家政学館4F 生活科学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス 課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋※他の授業との関係から担当教員は最低2名以上で指導する。	ガイダンス（授業目標等） これからの授業のすすめ方、建築設計製図室や製図台の使用 方法やルール、製図用具の購入方法等について説明する。 また、設計図の種類やそれぞれの役割、図面制作にあたって必要な心構えについて述べる。図面には「正確・速さ・綺麗」が要求されることを理解する。 課題説明・模型製作	課題1作成	60
2	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・エスキスチェック・模型製作 平面を組み合わせることで立体物を創造する。造形的視点を養い、今後の設計課題で模型を製作できるように建築模型材料と道具の使い方を学修する。	課題1作成	60
3	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック・模型製作	課題1作成	60
4	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック・模型製作	課題1作成	60
5	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック・模型製作	課題1作成	60
6	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック・模型製作	課題1作成	60
7	課題1 「平面の組み合わせ」 提出 担当：阿部・長田・高橋	提出・プレゼンテーション	課題1作成	60
8	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	プレゼンテーション	課題1作成	120
9	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・平面図兼配置図、立面図作成 木造住宅（S＝1/100）の平面図の描き方について説明する。建築基準法等（隣地境界線、建物の高さ、材料等）の関連や耐力壁等の構造面についても理解する。	課題2作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成 木造住宅（S＝1/100）の平面図をトレースする。トレースすることにより、描きかたを理解する。	課題2作成	60
11	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題2作成	60
12	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題2作成	60
13	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題2作成	60
14	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題2作成	60
15	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題2作成	120
16	課題2 「木造住宅トレース」 提出 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図提出	課題2作成	120
17	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・平面図兼配置図、立面図作成 木造住宅（S＝1/100）の平面図の描き方について説明する。建築基準法等（隣地境界線、建物の高さ、材料等）の関連や耐力壁等の構造面についても理解する。	課題3作成	120
18	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	120
19	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	60
20	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	60
21	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	120
22	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	120
23	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	120
24	課題3 「自邸」提出 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図提出	課題3作成	120
25	課題4 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・読書・エスキス 文学作品を読み、文章から住宅に関わるキーワードを抽出して空間を創造する。文字情報から空間を読み解く力を養う。	課題4作成 読書	60
26	課題4 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」 担当：阿部・長田・高橋	読書・エスキス	課題4作成 読書・エスキス	60
27	課題4 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」 担当：阿部・長田・高橋	読書・エスキス・平面図、立面図作成	課題4作成 読書・エスキス	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	課題4 「空間創造演習 文学 作品から空間をイメージする」 担当：阿部・長田・高橋	読書・エスキス・平面図、立面図作成	課題4作成 読書・エスキス	120
29	課題4 「空間創造演習 文学 作品から空間をイメージする」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図作成	課題4作成 読書・エスキス・図面作成	120
30	課題4 「空間創造演習 文学 作品から空間をイメージする」 提出 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図提出	課題4作成 読書・エスキス・図面作成	120